

性教育 どう教えたらいい？

お医者さんに
聞いてみよう

22



子どもへの性教育が大事だと言われていますが、何をどうしたらいいのかわかりません。どのあたりから、どういった手法で教えたら良いのでしょうか。

「性教育」とは、文字のごとく性に関する教育と思っていまいませんか？ 一般的には思春期における性の発達や、生殖、性交についての知識を教えることと考えられています。自分と他者の命や体、健康について知り、人との関係性を築き、自分だけでなく周りの人を大切にするための学問です。

一方で、日本の性教育は世界から後れを取っており、予期しない妊娠や性暴力から子どもを守るためには、学校だけでなく家庭における性教育も大切です。しかしながら、親世代も学校できちんとした教育を受けているわけではありませぬので、難しく感じられる方

親も子も一緒に学ぶ

自分の身を守ろう No Go Tell

No! 「イヤだ」「やめて」といましょう。はっきりと伝えましょう。

Go! その場から離れましょう。人がいるところまで逃げて助けをもとめましょう。

Tell! 自分でどうにもできない困ったことは大人に相談しましょう。

まず大事なポイントは「プライベートゾーンを意識する」です。プライベートゾーンは「自分の身体の大切なところで、必要な場合を除いて誰かが自分の同意なく見たり触ったりしてはいけないところ」です。具体的には「水着で隠れる部分（胸、お尻、性器）と口」を指します。プライベートゾーンは、親であっても勝手に触れてはいけません。

も多いでしょう。まずは、乳幼児時期からでもできる性教育から始めてみてはいかがでしょうか。

《答える人》



島友子さん

富山大付属病院
産科婦人科・小児婦人科診療准教授

- ✓ 自分と他者大切に
- ✓ プライベートゾーン意識
- ✓ 相談しやすい環境も大事

せん。オムツ替えや入浴時など、身体に触るときは「オムツ替えよ」などの声かけが大事です。また子どもが嫌がっているときは、無理やりキスやハグなどのスキンシップを避けましょう。ふざけて（愛情表現としてでも）子どものプライベートゾーンを触らないよう注意しましょう。プライベートゾーンを勝手に見たり触ったりすることを好意の表現だと思っ込んでしまい、他人に体を触れたい見せたりするよう要求されても拒否できなかったり、逆に相手が嫌がっているのにプライベートゾーンを触ったりしてしまう可能性も出てきます。

次に「バウンダリー（境界線）と同意を学ぶ」です。自分と他者の間には「私は私」という境界線があり、この境界線

は自分で引くことができます。境界線をうまく引けないと、さまざまな対人関係の問題が発生します。

他者の境界線を越えるときには同意が必要です。親が子どもに「ハグしていい？」と聞いたり、恋人に「キスしていい？」と聞いたり。イヤな時にはイヤだと断ってもよいのです。イヤだと言えなくて困ったときには誰かに相談してよいのです。

対等な関係でない場合には、「境界線」を無理やり乗り越え、DVや性暴力が起りやすいと言われている。家庭の中でも境界線を意識し、「同意を取る」「Noと言え」「練習をしておく」といでしょう。

最後に「トラブルに備えて」についてです。実際に子どもが性にまつわる問題に直面した際、相談しやすい親子関係、信頼関係をつくっておくことも重要です。相談相手も複数（親だけでなく親戚や保健室の先生など）あると良く、日頃より子どもと一緒に考えてみたり、実際の相談先（性暴力被害ワンストップ支援センター#8891、性犯罪被害相談電話#8103など）を確認しておくなどしましょう。

家庭での性教育は、親も子も一緒に学べることが大切です。特に思春期以降、子どもが性について考えたり、知りたいと思ったときに、性をタブー視せず、話し合える環境を築いていきましょう。



隔週火曜に掲載。これまでの連載はこちらからご覧いただけます。